

学校教育委員会報告



第5回 学校交流会を開催して

榎原 弘之*

Hiroyuki Narabara

河田 直樹**

Naoki Kawada

2023年3月4日(土)13時より、学校教育委員会行事として学校交流会が前回に引き続き、九州工業大学をホスト校として完全オンライン形式で開催された。

参加者総数は、22名(教員等教育関係者14名、学生8名)であった。第1回が計21名、第2回が35名、第3回が29名、第4回が21名の参加であったので、全体としては参加者数が20名前後で推移する状況となっている。学生の発表数も5~6件で推移しているため、もう少し参加者と発表件数が増えるように活性化を図りたい。

今回は発表件数が6件で、多くの学校の学生が卒業を迎える時期であったため、総括としての研究発表が4件であったが、9月卒業の学生や、4月から卒業研究に着手する学生による卒業研究の中間発表も2件あった。また、その内容も前回ほど3Dプリンタ関連のテーマに偏らず、切削加工を含んだものづくりに関連するテーマが多く見られた。質疑応答も活発に行われ、発表した学生だけでなく、聴講した学生の参考にもなった事と思う。

基調講演は、学生時代に品質工学を学び、社会に出てからも品質工学を活用して活躍しているセイコーエプソン高田圭氏による「モビリティスキルと品質工学」と、「学生対抗 パラメータ設計大会(遠隔による演習)」の2本立てという、これまでに見られない新しい形で行われた。

「モビリティスキルと品質工学」は、オンデマンド型の形式を取り、学生がより強い興味を持ってもらえるような工夫が随所に見られた。これからの

学校教育の一つの姿を示しているように感じ、多くの学校教育関係者の参考になったことと思う。

一方のパラメータ設計大会は、教員の参加者の方が多かったこともあって、実際には学生同士の対抗戦とは言い難い部分もあったが、参加者全員が配布された表計算シートを使って各々計算を行って結果を競う体験ができ、学校交流会の一つの新しいスタイルを見た気がした。

実際には最初にパラメータ設計大会が行われ、オンデマンド型授業の間に高田氏が採点を行うという流れで行われ、聴講者を飽きさせない配慮もなされていて、全体的に得るものの大きい講演であった。

交流会全体のプログラムは以下の通りである(敬称略)。

<交流会プログラム>

○開会の挨拶

学校教育委員会副委員長 埼玉工業大学 河田直樹
第1部 社会での品質工学の学びの活かし方

司会：埼玉工業大学 河田直樹

<基調講演> セイコーエプソン(株) 高田 圭

- ・モビリティスキルと品質工学(動画 15分)
- ・学生対抗 パラメータ設計大会(遠隔による演習 45分)

第2部 研究発表

司会：発表者の指導教員(リレー方式)

<卒業研究中間発表>

1. MTシステムによる糸引き異常検知~糸直径とMD値の関係~

埼玉工業大学 工学部 機械工学科3年 工藤恵梧
2. 超硬合金研削加工時の振動データの解析による加工品質評価-電力評価との比較-

*九州工業大学

**埼玉工業大学